CASE STUDY（優良事例紹介）

いわて生協 ベルフ向中野 様

（住所：盛岡市向中野字幅208番地1）

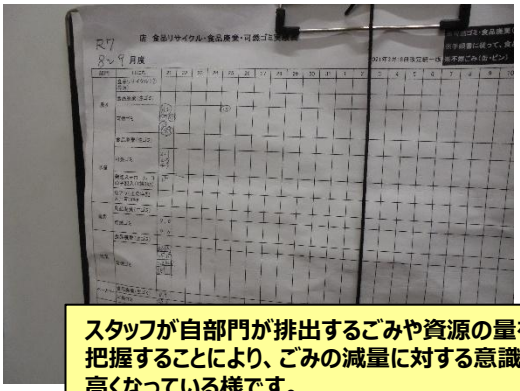
【企業概要】いわて生協は、組合員数29万7千人、県内世帯の過半数が加入する県内最大の生協で、店舗、宅配、葬祭、保障など幅広い事業を展開し、くらしをサポートしています。
環境の取り組みでは、環境保護や生産者支援につながるお買い物「エシカル消費」や「リサイクル活動」を組合員のみなさんとともに広げています。また、事業では「廃棄物の削減」「CO2排出量の削減」「再生可能エネルギーの活用」を積極的にすすめ、持続可能な地球環境をめざして取り組んでいます。

【事例1】ごみの発生量の実測による把握と「見える化」の推進

いわて生協様では、全店で各セクション（部門）毎に日々のごみの排出量を実測しています。

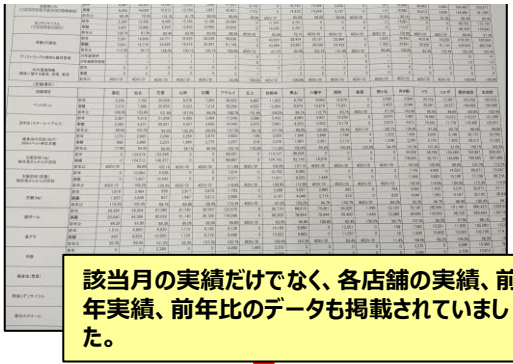
①各部門のスタッフがごみを一時保管庫に運び入れる際に、保管庫前で重量を計測。

②計測した重量をバックヤード（作業場）の記録表（ごみ保管庫付近に掲示）に記録。



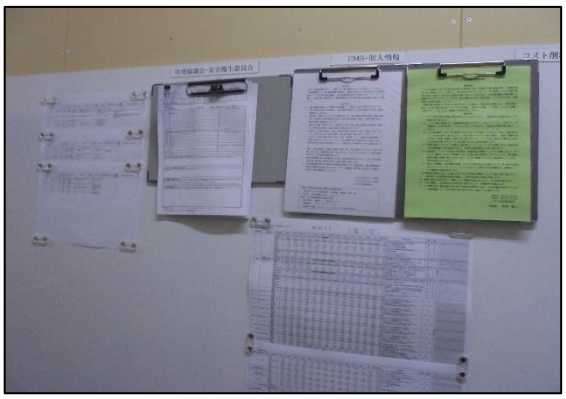
スタッフが自部門が排出するごみや資源の量を把握することにより、ごみの減量に対する意識も高くなっている様です。

③月が変わったら、前月分の記録表を本部へ提出。本部で取りまとめ、全店分の実績を各店舗に共有。



該当月の実績だけでなく、各店舗の実績、前年実績、前年比のデータも掲載されていました。

④環境関連の情報を掲示する掲示板に掲示し、スタッフに実績を共有。



POINT

どこから、どのくらいの廃棄物が出ているのかを具体的に知る事で、無駄な排出箇所や過剰な資源の使用が明らかになります。
この事実を把握する事が、問題意識を高め、具体的な減量策の検討に繋がります。

PICK UP

店頭回収している資源物についても、月次で実績を把握し、取りまとめの上、店舗スタッフに共有されています（ごみの排出実績の裏面に全店舗実績、前年比、目標などを記載）。
また、回収ボックスを利用される方など来店される方に対し、前年の回収実績、毎月の回収量の増減を掲示しておられました。

店頭回収BOXの掲示物

【事例2】現場責任者（店長）への本社からのバックアップ体制

いわて生協様では、本部にCO_2排出抑制などを目的とした環境事業推進室を設置し、定期的にごみの減量、資源の再利用についても検討を行っています。
また店舗運営部では、【事例１】で紹介した資源・ごみ・店頭回収実績の推移表の作成や、スタッフの採用時の環境教育などを実施し、現場責任者である店長をバックアップする体制となっています。

【事例3】現場での適切な分別の実施

一般廃棄物に混入しやすい、廃プラスチック（産業廃棄物）について、専用のごみBOXなどを設置し、現場で手元分別されています。
また、同じく一般廃棄物に混入しやすい古紙類についても、排出量が多い部門や事務室では、手元分別を行っています（それ以外の部門はバックヤードに共通のBOXを設置し、そちらに分別）。

**廃プラ用のダストボックス。
トレー、ビニール手袋等を分別しています。**

POPの多い青果部門にある古紙回収BOX。

**誰でも分かるように、
分別する品目を表示
（ラベル・POPなどで）
すると、より効果的です。**

盛岡市ごみ減量・リサイクル
シンボルキャラクター
めぐるちゃん

資源・ごみの一時保管庫も、種類別に保管場所を明示し、混入しないように整理されています。

PICK UP

**生ごみ・あらなどの保管庫。
空調が設定されており、匂いもコントロールされており、衛生的でした。**

同店では、その他にも次のような取組みも行っています。

- 生ごみ・魚あらを、㈱バイオマスパワーしずくいし様へ委託し、肥料や発電に再利用しています。
  ※再利用できる品種が限られることもあり、全体の50～60%ほどをリサイクルしているとのこと。
- 店舗で使用する資材は、バイオ比率（製品中のバイオマス（生物由来の有機資源）の割合）の高いものの採用を増やしています。
- 店頭回収したペットボトルのキャップのリサイクル収益金を全額ユニセフ募金に寄付しています。